



NEWS LETTER かわらばん

Vol.2

オンライン

犬山のまちづくり

「市民活動」と「地域活動」を考える ワークショップ

第2回目となるワークショップは、7月24日（土）に行いました。参加者は12名、オンライン環境がない方向けのサテライト会場には5名が参加しました。

「持続可能なまちってどんなまち？」というテーマで意見交換を行った第1回に引き続き、第2回は20年後の未来を想像し、未来の市民活動、地域活動のあり方について意見交換する回となりました。

各グループからは、「在宅ワークが進んで、今より現役世代が地域の活動に参加できる時間ができるのでは？」、「テクノロジーが進んで、家にいながら個人と個人が誰でも、当たり前のようにつながって、新しい活動や仕事が生まれそう！」など、可能性を期待する話題が出る一方で、「デジタル化するほど、必ず『デジタル弱者』と言われる人たちも出てくるので、そこのケアが必要」「価値観が多様化し、人口が減少していく中でコミュニティが細分化していくと、その活動に対する動機づけが必要」など、課題や変化への対応の必要性が議論されました。

最後には、「20年後の活動のために、明日からできること」を一人ひとり発表し、参加者それぞれがまだ見ぬ未来と、今をつなげた第2回となりました。

7月24日（土）オンライン（Zoomミーティング）

【第2回のテーマ】 あつたらしいいな！こんな活動 できたらいいな！こんなこと

1

はじめに
あいさつ & 趣旨説明

2

導入
20年前の犬山と、20年後の犬山

おしながき

1. はじめに

2. 導入

3. グループごとにディスカッション

4. 全体共有＆全体トーク

5. まとめ

STEP 3 成果—「条例（案）」—「市民活動支援条例」

「条例（案）」は、平成13年3月議会で承認。
「犬山市市民活動の支援に関する条例」として制定され、
平成13年3月27日に施行。



ワークショップでの検討



▲20年“前”的「市民活動支援条例」制定の際にもワークショップを行い、市民参加で条例の内容が検討されました！

【図1-1】我が国の人口は長期的には急減する局面に

「日本の人口は、2018年をピークに、2050年まで100年間連続減歩」の状況に陥っています。この変化は、

半世紀でみてても目を離さない、確実に生じる減少。

（出典：総務省「平成29年国勢調査実績による2018年国勢調査結果」、内閣府「平成30年国勢調査実績による2019年国勢調査結果」、総務省「平成31年国勢調査実績による2020年国勢調査結果」）

（出典：総務省「平成31年国勢調査実績による2020年国勢調査結果」）

（出典：総務省「平成31年国勢調査実績による2020年国勢調査結果」）</p

3

グループごとにディスカッション

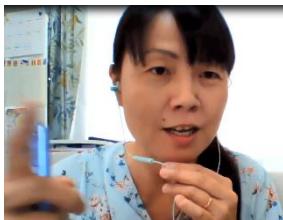
「20年後の市民活動、地域活動」こうなったら！

A Group

コロナによって在宅ワークが増え、地域活動に参加しやすくなつたこともある。一方で、テクノロジーの進歩から取り残される人も一定数いるため、デジタル化も大切だが、対面でのコミュニケーションとの両立が必要。また、安心して集まれる方法も当たり前になるといい。



B Group



テクノロジーを生かし、個と個のつながりが強くなっている未来を想像すると、そこから新しい仕事や犬山発のアーティストが生まれるかもしれない。その人たちが犬山に魅力を感じ、若い人達が地元に残ってくれる仕組みがあると、新たな可能性が広がっていく。一方で、人の感情の部分はテクノロジーでは難しい。その部分は、ずっと考えていくんだろうなと思った。

C Group



20年後はコミュニティ(人の集まり)がSNSの発達などで細分化していく、いろんな分野のコミュニティがたくさん生まれているのではないか。そうすると、なぜその活動をするのかという動機付けがより必要。逆に、子ども会などの機能やコミュニケーションの場が減っているという話から、いっそ学区で大きな子ども会にしてはという意見が出た。

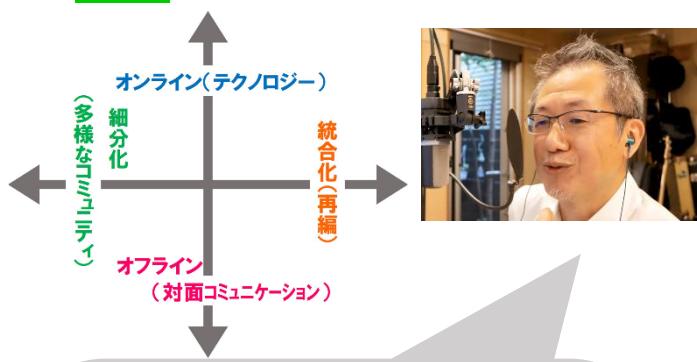
サテライト Group

小学校区のコミュニティは少し広すぎるため、細分化された塊で機動力を持って活性化してはという意見があつた。また各地では移動支援が喫緊の課題であり、「お医者さん今度いつ行くの？」と言った気軽に声がかけられるまちづくりが自然に生まれてくれればという話になった。

4

全体共有

講師(タケゾー)からのコメント



- ・統合/細分化、オンライン/オフライン両面の話がありましたね。
- ・いずれにしても、20年後の未来はテクノロジーの下支えがあって、多様でいろんな活動が起きてくる一方で、やっぱり対面のコミュニケーションも大切だという方向性が見えたのは大きな収穫だったと思います。
- ・どちらか一方ではなく、選択できることが「豊かさ」だと思うので、Aグループでも出た、両端をつなげるアウトリーチやマッチングが重要になってきます。
- ・SNSで簡単につながれると思いがちですが、逆にSNSが分断を生んでいる事実もあるので、もう一つ工夫がないと、良いコミュニティは作れません。
- ・そういう意味では、その地域で活動する意味や、この犬山で活動するメリットがより求められるでしょう。
- ・テクノロジーが進むほど、地域への帰属意識や喚起する手立てが必要ですね。

5

まとめ

20年後の活動のために、明日からできること



- 子どもと一緒に地域の人とたくさんコミュニティを作る
- お父さん世代の活動の推進
- 明日から毎日知らない人と一言話す
- コロナ後、世代に関係なく話し合う場を作る
- 子どもと町を歩く
- 今の活動を続ける
- 現状の調査
- 活動の種まき
- 地域活動への協力
- 新しい活動を作る
- 仲間づくり
- etc…